



ベテラン社員と新卒社員は、孫ほど年齢の離れた同僚です。

創業より当たり前に実現されてきた SDGs 先進企業のダイバーシティ経営

具だくさんのおやきを囲炉裏端で焼いて提供してくれる「縄文おやき村」で有名な株式会社小川の庄。おやきだけでなく食事やお土産にも、地元で採れる山菜や野菜、きのこなどを利用した、おばあちゃん手づくりの味が好評です。

地域密着で、高齢の方がいきいきと働く姿が印象的な同社は古くからSDGsの観点で事業に取り組んできた企業だと思われますが、「長野県SDGs推進企業」に登録したのはつい最近のこと。「なんとなくできてはいるだろうなあとは思っていましたが、この機会に自社のできている部分とできていない部分を洗い出せたことで、得意・不得意が明確になり、今後の展望が開けました」と権田公隆社長は語ります。SDGsの先進企業ともいえる同社の取り組みをあらためてご紹介します。



SDGsを積極的に推進する、3代目の権田公隆社長。



囲炉裏の鉄鍋で焼くおやきは、外はカリカリ、中はもっちり。
焼きたてをいただくのが最高です！



「農家の味自慢」には、文字通りレシピ提供者の名前が記載されています。



材料となる素材はよく洗って皮まで使うなど、
フードロス削減に取り組んでいます。



縄文おやき村 村長の大西さんは現在81歳。
まだまだ現役です。

ダイバーシティ経営で 「明るく・楽しく・元気良く」

そもそも「この村に住む人が、生涯現役で生き甲斐を持って働けること」を理念に発足した同社。地元雇用、高齢者雇用をはじめ、多様な人材の採用に取り組み、100歳になっても働ける職場を目指しています。一方で、新卒や中途採用にも積極的。女性については、多様なキャリアの選択、キャリアアップを積極的に推進しており、現在工場長の9割が女性です。社員には資格の取得を奨励するなど、広く学びの機会を提供し、リスクリングを推進しています。

環境負荷削減 フードロス対策 アップサイクル

工場内の機械化・自動化を進めるとともに生産管理の高度化により、省エネ、省力化、歩留まり向上、廃棄物削減などに取り組んでいます。たとえば野菜はできるだけ皮まで使うなどといったフードロス対策やアップサイクルには、ワーキングチームで取り組んでいます。

育ててくれた地域に 恩返し

- ・「地産地消」に加え、「地産外商」を推進。信州の地域資源の魅力を内外へ発信します。
- ・信州の食材にこだわって商品を開発。地元の生産者と契約することで、耕作放棄地が地域に拡大しないよう取り組んでいます。
- ・おやきづくり体験や学校給食でのおやき提供など「食育」に貢献しています。
- ・防災・防火など、地域の活動に積極的に参加するほか、リーダーや中核になれる人材を育成することで、育てていただいた地域に恩返しします。

企業 INFORMATION

株式会社小川の庄

1986年、小川村の第三セクター方式の村事業によって誕生しました。現在は小川村に「おやき村」のほか、善光寺表参道ばいお大門内に「おやき村大門店」、JR長野駅ビル内に「おやき村MIDORI長野店」も展開。縄文おやきのほか、ふき味噌やねぎ味噌など、おばあちゃん手づくりのお惣菜や珍味、混ぜご飯・炊き込みご飯の素など信州ならではのお土産は、店舗のほか通販でも大人気です。



小川村の山中の農家を改築して昭和61年に開業したおやき村。

設立 1986年
代表者 代表取締役社長 権田公隆
住所 〒381-3302
上水内郡小川村高府 2876
TEL 026-269-3760
FAX 026-269-3763
HP <https://www.ogawanosho.jp/>

～ 「ながの」の未来にむけて、今できること ～

「ながのSDGs information」では、長野地域連携中枢都市圏9市町村（長野市・須坂市・千曲市・坂城町・小布施町・高山村・信濃町・小川村・飯綱町）にある企業や団体のSDGsに関する取組を紹介しています。圏域間のパートナーシップや取組を通して、持続可能なまちづくりを推進していきます。

他の記事は
こちら



*長野市は、「SDGs未来都市」に認定されています。
「環境共生都市『ながの』の実現」を目指して活動に取り組んでいます。
…「SDGs未来都市」とはSDGsの達成に向けた優れた取組を提案する都市として、国（内閣府）が選定するものです。

詳細ページは
こちら



<発行>長野地域連携中枢都市圏 事務局
(長野市企画政策部 企画課)
〒380-8512 長野市大字鶴賀緑町1613番地
TEL:026-224-5010 FAX:026-224-5103